

製品名: コフィリン (リン酸化 Ser3) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04483**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	19kDa

抗原情報

遺伝子名	CFL1
別名	CFL1; CFL; Cofilin-1; 18 kDa phosphoprotein; p18; Cofilin; non-muscle isoform
遺伝子 ID	3716.0
SwissProt ID	P23528
免疫原	抗血清は、ヒトコフィリンの Ser3 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

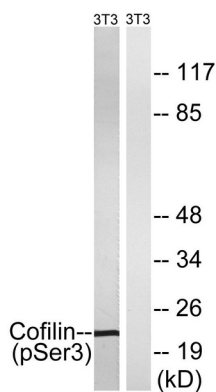
コフィリン 1 (CFL1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、pH 依存的に F-アクチンおよび G-アクチンを

重合および脱重合することができる。LIM キナーゼによるこのタンパク質のリン酸化の増加は、Rho 誘導性のアクチン細胞骨格の再構成を助ける。コフィリンは広く細胞内に分布するアクチン調節タンパク質で、pH 依存的に繊維状の F-アクチンに結合して脱重合し、単量体 G-アクチンの重合を阻害する。アクチン-コフィリン複合体の細胞質から核への移行に関与する。[OMIM 提供、2004 年 4 月]、機能: pH 感受性でアクチンの重合と脱重合を可逆的に制御する。コフィリンとアクチンの比率が 1: 1 で G-アクチンと F-アクチンに結合する能力を持つ。これは、核内および細胞質のアクチンロッドの主成分です。、オンライン情報:コフィリンエントリ,PTM: 休止細胞では Ser-3 がリン酸化されます。、類似性:アクチン結合タンパク質 ADF ファミリーに属します。、類似性:1つの ADF-H ドメインを含みます。、細胞内局在:熱ショックまたは 10%ジメチルスルホキシドにさらされた細胞では、ほぼ完全に核内に存在します。、組織特異性:さまざまな組織に広く分布しています。、

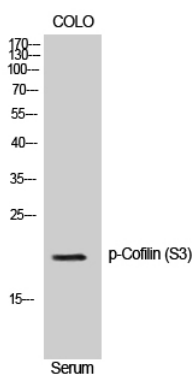
研究分野

軸索ガイダンス、Fc ガンマ R を介した貪食、アクチンと細胞骨格の調節。

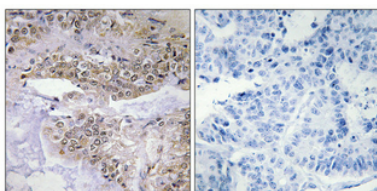
画像データ



パクリタキセル 1 μ M で 24 時間処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、コフィリン (リン酸化 Ser3) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホコフィリン (S3) ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4 $^{\circ}$ C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。